大高応援通信　**心清らＶ ictory**　32勝目　平成30年 10月 19日

《陸上競技に補助員として参加した生徒の感想③》

・自分の仕事をしている中で、障がいのある方が嫌な気持ちにならないようにとだけを考えて仕事をしました。他人の言動によって感じることは人それぞれで、同情されている、図々しい、態度が冷たいなどと思われないように相手を第１に行動しました。

・１番心に残ったのは、目の見えない選手が走っている姿です。前が見えず一歩を踏み出すのが怖いはずなのに、力強い一歩を出して走る姿に感動しました。

・１５００ｍの記録が、４分１０数秒というアナウンスが流れた時はとても驚きました。補助員の仕事をした時間は短かったけれどいろいろといい経験ができて良かったです。

・入賞者に順位プレートを渡す役割でした。私は３位を担当したのですが「おめでとうございます。」と声をかけた私に「ありがとうございます。」と笑い、全力で喜ぶ方もいれば、（優勝できなかったことが悔しくて）我慢できず涙を流される方もいました。１年間もしくはそれ以上の時間をかけた成果を間近で見ることができてよかったです。

・障害を持っている方の記録とは思えないような（速い）タイムなどを出したりしていてとても感動した。一方で、難しい動きを頑張っている姿を見て感動したし、自分も頑張ろうと勇気や元気をもらった。日々の生活を大切にし、一生懸命頑張ろうと思った。

・自分は前に障害者スポーツの大会の補助員をしたことがあったので多少スムーズに仕事ができました。多くの障害を持った方を見て、「胸が痛む」などの感情は一切わかず、様々な苦労を乗り越え、胸を張ってそこに立って一生懸命に競技に取り組んでいる姿が格好良く、手本にしたい生き方だと思いました。

・今回の補助員の仕事を通して、福井しあわせ国体・元気大会に多くの方が関わっていることを実感しました。そして私もその一員になることができて嬉しかったです。

・補助員をしていて感じたのは、僕たち補助員の指導をしてくださった審判員の方々を含め、国体・障ｽﾎﾟに関わるすべての人が、国体・障ｽﾎﾟを良いものにして、しっかり成功させようと強い気持ちを持って仕事をしているということです。選手、役員、審判員、補助員、県民が一体となったいい大会だったと思います。

担任の先生方は、必要部分を読み聞かせ、しばらく教室掲示して下さい。